



▼ 会員増強に思う

「 ボランティア活動の断面図 」

Change! 2022 推進委員

石田 孝次 (東京多摩みなみ)



私が、ワイズに入会したのは、約4年前です。入会してみてもワイズは、YMCAの活動を支える慈善団体という認識は持てましたが、実際にワイズの活動をする中で何がボランティア活動で、それが誰に対するボランティア活動なのかは認識できず、ボランテ

ィア活動をしているという実感は持てませんでした。その悩みは、その後も長く続き迷走しました。

転機は、2年前の地元多摩市の夏祭りでのことでした。「カルビドッグ」を手作り販売したり、自クラブが運営する「ぼんぼこ農園」で採れた野菜を販売し、売上金の一部を寄付したり、自クラブの活動ファンドに組み込んだりしました。この場合は、明確にクラブのCS活動の一環としてボランティア活動に主体的に参加し、クラブの目的のために貢献したという実感が持てました。次いで、地元のNPO団体でフードバンク事業に携わっている「シェア・マインド」とのコラボ事業として、ロス食材を使った焼き菓子作り、食事会、夏祭りの子供向けゲームの景品提供、チャリティーバザーなど、形を変えたボランティア活動が始まり、この時の体験を通じてこれがボランティア活動かと認識を深めることができました。

その中で解ったことは、ボランティア活動での関わり方は一様ではないということでした。労務を提供する奉仕活動、寄付、自クラブの活動資金を捻出するためのファンディング活動、商材の提供、デリバリー、販売活動など、クラブ全体で見ると役割に応じた様々な関り方があることに気がきました。

だがしかし、これらのボランティア活動をどう捉え、どう認識したらいいのか、即ち、活動をどう評価するかが頭の中で整理ができませんでした。

そこで、次の様に整理してみました。①クラブの活動のための参加、②YAMCAのイベントへの参加、③地元でのCS活動への参加の3つに分類してみました。自クラブへのボランティア活動は、『自助』として、YMCAへのイベント参加は、寄付と労務提供が主体なので『公助』として、CS活動は、様々な関わり方があるので『共助』として分類してみました。すると、それぞれのボランティア活動が、誰に対する活動か、活動のどの部分がボランティア活動なのか、そして、それを誰とともに成し遂げるのか。また、一つのイベントに対し、メンバー各位が様々な形で関わるができる。だからみんなの協力の下で成し遂げたという連帯感や達成感を共有することができる。これが、クラブとしてのボランティア活動の本質ではないのか。そして、①『自助』②『公助』③『共助』の3つの関係は、夫々が独立したものではなく相互に組み合わさっている。このケースバイケースの関わり方こそが、ボランティア活動の重層化、多様化そのものであり、活動の本質ではないのかという考え方にたどり着きました。加えて、「奉仕活動」と「収益活動」は、一体のもので、その活動こそが、クラブ運営を持続させるための原動力なのだということでした。

東日本区では、今、Change! 2022を旗印に会員増強に組織を挙げて取組んでいます。しかし、大事なことは、仲間に誘いたい人に自分たちのやっていることを分かりやすく説明できなければ相手の心に届きません。ワイズの高邁な精神論をかざし、形式や大義名分を唱える前に、ボランティア活動を目指す人に対して、それを一緒にやってみたいと感動を与え、ともに汗をかき、思いを共感してくれる新しい仲間を導く、泥臭い活動にこそ精を出すべきではないだろうか。

◀ 石田孝次さんのプロフィール ▶

1948年 12月 北海道深川市納内村生まれ
65.5歳でサラリーマン人生を終え、社会人1年目で
直属の上司となった Y's 横浜つづきクラブの鈴木茂
さんに誘われ、ワイズの門をたたく。
2017年 7月 東京多摩みなみクラブ初代会長
2018年 7月 東新部 会計
2019年 9月 Change! 2022 推進委員

▼ 各部 会員増強事業主査より

「富士山部会員増強事業主査として一言」

富士山部主査 青木 利治 (三島)



富士山部会員増強事業主査の青木利治(三島クラブ)と申します。今期、富士山部では18名の入会がありました。そのうち熱海クラブは半分の9名を入会させてくれました。しかしながら、退会者や亡くなった方もおられまして、10名以上を増やすことはできませんでした。これも新型コロナウイルスの影響が大きく、3月以後は例会や地域での活動が中止になった結果だと思えます。

私は37年前に三島クラブに入会しました。当時のメンバーは、30歳代と40歳代が大半でした。当時はアクティブに動くことができ、やることが全て新鮮で楽しかったです。現在、メンバーの年齢は60歳以上で以前のように動くことができなくなりました。やはり、ワイズメンズクラブの存続と増強のためには、30代や40代のメンバーが必要だと痛感する次第であります。私は若い人達と接する機会があるとワイズの話をしませんが、会費の問題・例会の内容・ボランティア活動の多様化など、世代間のギャップを感じています。

今、新型コロナウイルスが蔓延していると思うように活動できません。当面は我慢してコロナを乗り切るため、オンラインなどITツールを活用したワイズ活動になるでしょう。そこに若い人達が興味を持つ機会になればと思います。

最後に、富士山部では「熱海YMCA」から「静岡YMCA」に名義変更の話が進んでいます。やはり、静岡県の中心地である静岡市にYMCAが必要です。何としても静岡市にYMCAの拠点を作らなければなりません。そして、静岡市にワイズメンズクラブを復活させることです。東西日本区のワイズメンズクラブの皆様と日本YMCA同盟の協力をいただきたいと思います。宜しくお願い致します。

【熱海クラブでの入会式の様子】



▼ 各部 エクステンション委員長より

「北東部の取り組み」

北東部部長・北東部E委員長

鈴木 伊知郎 (宇都宮東)



2019年7月には、第28回アジア太平洋地域大会が仙台市で開催され、北東部では部をあげて大会開催支援に力を入れてきました。

仙台での大会が終了すると、次にはエクステンションです。北東

部では2016年に石巻広域クラブをチャーターした経験があります。次なるエクステンションについて、部の評議会やエクステンション委員会などで話し合ってきました。候補地としては宮城県仙台市、栃木県宇都宮市などの主要クラブがある都市の他に、東日本大震災でボランティアが活動した岩手県宮古市(石巻広域クラブと同じ手法です)などの候補地が出ました。

他にも、北関東・東北地区でのYMCA空白地域において、新YMCAの設立と共同歩調でワイズメンズクラブの新クラブの設立を目指そうという方向性が出てきました。宮古市の他に、福島県福島市・いわき市が候補地に挙がりました。ただ北東部はたいへん広い部です。北のもりおかクラブから、南の前橋クラブまで距離にして500kmもあります。宇都宮市や仙台市から福島の各都市に行こうとすると、100kmを越えるケースがあります。

北東部には、他の部にはない距離という問題が発生するので、今年度予算からエクステンション活動に対する交通費補助を計上し、部をあげてエクステンションを応援する態勢にしました。ただし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、県境を越えた活動(県内の各クラブの例会でさえも)自粛せざるを得ず、エクステンションの動きが停滞している状況になっています。

▼ 新入会員をご紹介します

会員増強事業主任 札埜 慶一 (熱海)

5月には、下記の方が入会されました。(敬称略)

No.	入会者 (クラブ名)	紹介者
1.	佐竹 博 (横浜)	古田 和彦

▼ Change! 2022 推進委員より投稿

コロナ禍での『ABC 予想』？

次期会員増強事業主任

伊藤 幾夫 (東京多摩みなみ)



『abc 予想』とは、数学界の難問のひとつで、35 年間未解決でしたが、今年 4 月に京都大学数理解析研究所の望月新一教授 (51 歳) が証明して話題になりました。証明として用いた手法は「宇宙際タイヒミュラ

ー理論」というもので、この理論はその斬新さから「数学の相対性理論」と言われているそうです。

話は変わって、ワイズの『ABC 予想』(私が勝手に名付けました)を考えたいと思います。

もうみなさんご存知のことと思いますが、Change! 2022 プロジェクトの目標は「ワイズ 100 周年の 2022 年までに会員数を 1,246 名にする」というものです。これを数式で表すと、

$$A+B+C=1246 \cdots \textcircled{1}$$

ただし、A は固定値で $A=849$ これは、2019 年 7 月 1 日の会員数です。

また、右辺の 1246 は 2022 年 12 月 31 日までに達成したい目標値です。

$B=280$ です。これは、昨年すべてのクラブ (61 クラブ) から出していただいた「2022 年末までに純増できるであろう会員数」の合計です。(そんなこと書いたっけとお忘れの方は、Change! 2022 ニュース 4 号 2 面を見てください。)

つまり、数式①は $849+280+C=1246$ となり、 $C=117$ となります。

この $C=117$ を達成するにはどうしたらいいのでしょうか。それは、2022 年までの 3 年間で、7 つの部が新しいクラブを 21 作れば達成できるという予想です。

つまり、7 部×3 クラブ×(5~6 名)=117 名 (5~6 名というのは、5 人クラブの新設を想定しています。実際は 8~10 名でしょうか。)

でも、ここで新たな難題が突き付けられました。それは、新型コロナウイルスの発生です。ワイズの世界もかなりの影響を受けると思います。しかし、私たちは『Change (斬新な発想)』によって、この難局を乗り越えていきましょう。

▼ 千葉ウエストクラブ設立準備状況

前号に引き続き、千葉クラブの 6 月号ブリテンとメール版ブリテンから、新クラブの設立準備情報をお届け。

◆ 千葉ウエストクラブ準備状況

1. 設立準備中の「千葉ウエストクラブ」では、6 月の設立準備例会を 6 月 20 日 (土) 午後 1 時から、日本キリスト教団船橋教会 (船橋市夏見 6-6-6) で開催します。

JR 船橋駅北口バス乗り場から、0 番台か 10 番台のバスで 5 つ目の夏見北バス停下車、シオン幼稚園を目指して 8 分ほど歩きます。

準備例会では、今回初めて参加する会員候補の方も予定されていますので、ワイズ紹介のパワーポイントを映写します。また、設立総会に向けての諸準備について説明・協議します。

この会は、食事は無しにしますので、参加の方は早昼をお済ませの上お越しください。車は教会敷地内に駐車できます。

2. 長尾設立準備委員長が区事務所と綿密に連絡し、設立・国際加盟のための手続きを進めています。
3. 教会の信徒館を YMCA・ワイズの活動のために借りる考えですが、コロナウイルス関連で同館のお披露目も持ち越しになっており、貸し出しの規定がまだ整っていないようです。

▼ 西日本区では…

京都グローバルクラブ、
会員数日本一への意気込み

京都グローバル 27 期会長 森下 克己



今期 2019 年 7 月に 8 名同時入会のあった京都グローバルクラブの会長に、今期の意気込みや入会実現の経緯、特別な方策等を語っていただきました。

▼ 前期の取組

- ゲストが例会参加する場合は必ずゲスト紹介フォームをメンバーへ事前配信する。→ 例会時ゲストと話をし易くする為
- ゲストが参加する例会は必ず例会後、懇親会を開催。→ 例会だけではなかなか在籍メンバーの良さをアピール出来ない為
- 今期に在籍メンバー満足 No.1=在籍メンバー数日本 No.1 になると発表!! → 確認時点: 日本 1 位 (京都パレス 63 名)

* 日本 1 位は世界の TOP 10 → 確認時点:世界 1 位は、ノルウェー・マンダククラブ 121 名

日本、世界の No.1 の数をメンバーに伝え、頑張れば日本 1 になれると意識して貰う。

- 今期の初例会に 8 名同時入会をする調整

▼ 今期の取組

- 「目指せ日本 No.1 クラブ・ボールペン」の作成 → メンバー全員に配布 → 常にボールペンを利用して貰い、常に日本 No.1 を意識して貰う。
- 「目指せ日本 No.1 クラブ・マグカップ」の作成 → メンバーバースデイプレゼントとして配布 → 常にマグカップを利用して貰い、常に日本 No.1 を意識して貰う。
- 参加ゲストにも「目指せ日本 No.1 クラブ・ボールペン」のプレゼント → 一緒に日本 1 目指して楽しみましょう・・・と伝えています。
- 入会者 1 名に対して 1 万円のニコニコをする。→ 本気である事の意思伝達
- 毎例会で本気で日本 1 になると言い続ける。→ なればいいなあ・・・ではなく、絶対に日本一になると言い続ける。
- ゲスト紹介フォームの事前配信・例会後の懇親会(前期より継続) → 良い習慣の継続

初例会で 8 名の入会式をした事によって、メンバー全員が“本当に日本 1”になれるかも？ と意識して頂いたように思います。現在は EMC 委員会、三役だけではなく、メンバー全員が増強を意識していて、毎例会数名のゲストが参加しています。参加頂いたゲストを全メンバーで精一杯のおもてなしをし、新メンバー獲得へ繋がっています。

EMC 活動は特定のメンバーがするものではなく、クラブ一丸となって進めなければならないと考えます。

そのためには在籍メンバーの満足は必須です。各事業委員会の更なる充実がメンバーの満足感を高め、より一層魅力あるクラブへと進化するものと考えます。

そして、メンバー全員が・・・他に自慢したくなるクラブ、友達を誘ってみたいくなるクラブ、例会・委員会が待ち遠しいクラブと思うようになった時、自ずとメンバーが増えてくるのではないのでしょうか。

現在、我々京都グローバルメンバーは、日本 1 は通過点と考えています。我がクラブ 30 周年には世界 1 になっている事をイメージし、今後も EMC 活動を含め、ワイズ活動に尽力して行く所存です。今後共ご指導宜しくお願い申し上げます。



西日本区の新生ワイズ起こしニュース No.2 より、会員数日本一を目指す「京都グローバルクラブ」の取り組み

を紹介させていただきました。

クラブの意気込みと共に、ゲスト紹介フォームの事前配信、例会後の懇親会などの配慮や、参加ゲストに「目指せ日本 No.1 クラブ・ボールペン」のプレゼントなど、参考になる試みがなされております。

東日本区でも QR コードの活用を提言いたします。クラブブリテン、名刺、CS 活動実施時の資料に、ホームページや Facebook の QR コードを貼り付け、自クラブのワイズ活動の広報を図ることをお願いいたします。

(Change! 2022 推進委員長 栗本治郎)

▼ Change! 2022 推進委員会の歩み

Change! 2022 推進委員会書記

大川 貴久 (熱海)

- 2017 年度：部エクステンション委員会スタート
- 2018 年度：宮内理事の要請により EMC 事業委員会と文献・組織検討委員会の会員増強小委員会にて討議を重ね、拡大 EMC 委員会を組織し、『2022 年をゴールとする中期会員増強運動を展開すること』が第 2 回東日本区役員会で承認
- この運動の推進のために、今後 2 年間で 280 万円を限度として、東日本区ワイズ基金より支出することが第 3 回役員会で承認
- クラブ向けと個人向け EMC アンケートを実施し、このプロジェクトの名称を募集し、清水弘一さん(石巻広域)の『Change! 2022』に決定
- アンケートでの各クラブの 2022 年末の目標会員数の合計は、1,129 名でした。さらに、各部で新クラブを数クラブ誕生させることが出来れば、1997 年時の会員数の 1,246 名まで会員数を増やすことは可能との認識になりました。
- 2019 年度：7 月より『Change! 2022 推進委員会』として正式にスタート
- クラブ向け・個人向けアンケートの纏めを発表
- Change! 2022 推進委員会規則・施行細則作成 (2019 年度第 2 回東日本区役員会で承認)
- Facebook 広告開始 (2019 年 12 月より随時)
- Change! 2022 アクションプランの作成
- Change! 2022 シンポジウム開催 (2020 年 2 月 1 日)、100 名以上が参加。グループディスカッションの纏め
- Facebook の状況：現在約 30 クラブがスタート
- 『Change! 2022 ニュース』を毎月 15 日に発行
- 毎月、推進委員会を開催。コロナウイルスの影響で 2020 年 3 月よりオンライン会議で開催中